

2023 年度 YOKOHAMA-SXIP 派遣プログラム参加学生の声

氏名	小野寺晃大		
所属	理工学府 化学・生命系理工学専攻	学年	修士 2 年
派遣先大学	パンジャブ大学		
期間	12 日間（内 2 日は移動日）		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

大学では研究施設の見学を主に行った。横国と比較して基本的に設備は古かったが、高価な機器は特定の施設で管理されており、専門のスタッフが一つの機会につき数人配備されているのが良いシステムだなと思った。企業見学では整形外科用品の会社と電子部品の会社を見学した。どちらもデザイン・設計から製造までを一つの会社で行っており、製品ができるまでの流れを知ることができ興味深かった。

語学面では、派遣中は常に英語を使っているため、日常会話で使えるフレーズを多く学ぶ事ができたと感じた。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なことで、学んだこと

食文化（ベジタリアン向けの文化）が特徴的で、レストランのメニューやスーパーで購入できる食料品の全てに VEG または NON-BEG という文字が記載されており、ベジタリアンへの配慮のすごさが印象的だった。また、インフラが人口増加に追いついていないという印象が強く、交通量の多さや運転の荒さ、道路の汚さも印象に残った。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

インドには特徴的な文化が多く存在し、個々人のモノの捉え方も日本人とは大きく違うため、自身の考え方、価値観を見直す良いきっかけになると思います。また、全ての説明・日常会話を英語で行う必要があるため、積極的に会話をしていけば必然的に英語力も高まると感じました（インド英語は特徴的なアクセントなので聞き取るのにはかなり苦労しました）。



2023 年度 YOKOHAMA-SXIP
派遣プログラム参加学生の声

氏名	藤澤 大世		
所属	理工学府数物・電子情報系理工学専攻	学年	2年
派遣先大学	Panjab University		
期間	2023/8/23 - 2023/9/3		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

- ・マーケティングの講義(約3時間)がとても興味深かった。インドの学生は、講師の質問に対して積極的に発言していて、日本の学生はこれではダメだなと思った。
- ・インドの英語(ヒングリッシュ)は、rの音が巻き舌になることと、独特なイントネーションが特徴的で、慣れるのに時間がかかった。
- ・インドの大学生は英語で講義を受けているので、非常に語彙を豊富に持っている。そのため、こちらから諦めずに伝えようとするれば、だいたい分かってくれる。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なこと、学んだこと

- ・新入生歓迎パーティーを見学したが、なぜか新入生側が一人ずつステージに立って出し物(ダンス・音楽など)をすることが衝撃だ(良くわからなかつた)。また、その後の休憩時間に会場の全員がステージに上がって、音楽に合わせて踊るというイベントがあって圧倒された。
- ・どこへ行くにしても、誰かがついてきてくれて、車で送迎してくれたり、タクシーを呼んでくれたりする。あるインド人学生によると、インド人は親しい人にはとことん尽くす国民性だとのこと。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

- ・インドというと、マイナスのイメージを持つ方もいると思います。自分もそれはそうで、正直なかなか厳しい2週間になるんだろうなとは思っていましたが、しかし、それだけ期待値が低かったので、チャンディーガルでの生活は、期待を上回ることしかありませんでした。

○期待を上回ったこと

- ・インドで出会った方がすごく親切にしてくれたこと
- ・チャンディーガルの町はすごくきれいで、治安が良かったこと
- ・おいしい食べ物に意外と出会えたこと、お腹を壊さなかったこと
- ・Elante Mall というショッピングモールが日本のものと遜色ないほど良かったこと など

○期待通りだったこと

- ・デリーの街中はとても汚い、異臭がする、人が多すぎて治安が悪い、人も親切でないこと
- ・シャワーが出なかったこと、お湯の温度調節がうまくいかないこと
- ・エアコンが止まり、別の部屋に移ったこと
- ・洗濯が届くのが遅いこと、微妙に汚れが残っていたこと など

●総じて、チャンディーガルを現地の方に案内してもらっている分にはとても快適でした！



2023 年度 YOKOHAMA-SXIP
派遣プログラム参加学生の声

氏名	m. y		
所属	横浜国立大学大学院 理工学府	学年	2
派遣先大学	パンジャブ大学		
期間	8/23~9/3		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

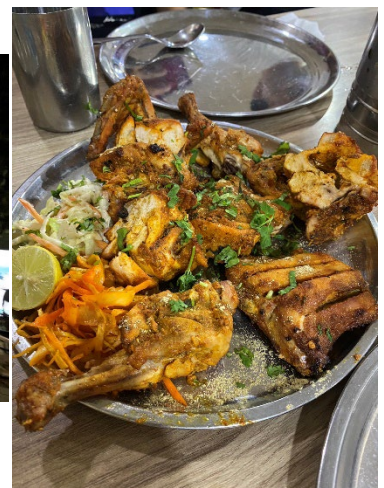
派遣先であるインドのパンジャブ大学での語学面で身に付いたことは、英語を聞く力です。私はこれまで日本に住んでいて、英語を聞く習慣はほとんどありませんでした。しかし、インドへ派遣し、英語を聞いて、返事をするというコミュニケーションを毎日行っていくと、聞き取れるようになってきました。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なこと、学んだこと

インドの生活や文化は日本とは全く異なることを実感しました。最も印象に残ったことはインド料理です。私は辛い物が好きではありましたが、どれも非常に辛いです。インドはカレーがメインな料理なのですが、私はカレーが苦手でした。しかし、派遣先で食べたバターチキンカレーとタンドリーチキンが本当に美味しくて驚きました。自分でも作ってみたいと感じました。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

少しでも迷われているなら、是非参加するべきだと思います。私はインドのパンジャブ大学に派遣するにあたって、食事や衛生面など不安なことがあり、実際に現地では困ることもありました。しかし、日本とは異なる価値観をダイレクトに肌で感じることができ、良い刺激になりました。私はこのプログラムに参加したことで、自身の価値観や将来への考え方に変化が生じたと感じます。また、現地の学生や先生方は非常に素敵な人たちばかりで、また会いにインドへ行きたいと思っています。辛い物好きで潔癖症でない方は行ってみたいはいかがでしょうか。



2023 年度 YOKOHAMA-SXIP
派遣プログラム参加学生の声

氏名	西山弘毅		
所属	経済学部	学年	2
派遣先大学	パンジャブ大		
期間	2023 年 8 月 23 日～2023 年 9 月 3 日		

派遣先大学での研修や語学面で学んだこと

大学を見学する際、自分の専門に近い経営学大学院で少し授業を受けたが、少しの間だけだったが実践的な内容で興味深かった。また少人数とほぼ毎日交流を深めるという経験は初めてであったため、プライベートな話題での意見交換をすることが出来、自分のスピーキング能力の自信につながった。また、少しヒンディー語も学んだ。挨拶や短文程度だがインド人学生と会話することが出来た。

派遣先の国の生活面、文化や社会的なことで、学んだこと

パンジャブ大で知り合った人々の多くが菜食主義者だったが、どういうきっかけで菜食主義になるのか、肉が食べたいか、宗教的なものなのかといった疑問をインド人学生に質問し理解を深めることが出来た。また左手は不浄なものでほぼ使わないというイメージを持っていたが、握手や口に運ぶときに使うことを避ける程度であり、意外と厳格ではないのだということが分かった。

来年度プログラム参加を考えている学生へ

日本とは環境も人も全く違う。それを楽しめないタイプだと受け入れられないのではないかな。何があってもあまり動じない力が求められると思う。エアコンのカバーが落ちてきた時はたまげた。お金は現地の両替よりもクレジットカードのキャッシングや、Wise, Revolut などのサービスを使った方がよい。虫よけは必須。長ズボンを推奨。インド人は基本長ズボンを着ているので、半ズボンは少し浮く。



